

5 教科指導に関するヒント



病弱・身体虚弱に伴う学習上の困難



- 学習の空白がある。
- 学習の空白が続くと、学びが定着せず、学習の遅れや学習意欲の低下が見られる。
- 学習時間の制約がある。
- 身体活動の制限を伴うことが多い。
- 直接経験の不足により、対人関係やコミュニケーション、自己表現の課題を抱えている。

共通

- 基礎的・基本的な事項を習得させる視点から学習内容を適切に精選する。
- 間接体験や疑似体験、仮想体験等を取り入れる。
- 指導内容の連続性に配慮したり、各教科等相互の関連を図ったりする。
- 教科書どおりに進めることにこだわらずに、単元ごとに現学年と前学年（場合によっては全学年）の内容を織り交ぜて学習を進める。
- 学び直しの機会を設ける。
- 教育番組や学習アプリケーション、DVD、インターネット等を活用する。
- 子どもの実態に合わせた自作プリントを活用する。

国語

- 心情の読み取りが苦手な場合は、物語文の心情理解よりも説明文の方が取り組みやすい。
- 自分で文章化することが苦手な場合は、穴埋め形式の自作プリントの方が取り組みやすい。
- 気持ちや感想を文章化することが難しい場合は、質問に答える形で言語化することから始める。
- 教科書を読むだけではあらすじを理解することが難しい場合は、物語の内容や流れを捉えられるように、物語に登場する人や物を作ったり、それらを動かしたりする。
- 漢字の学習に苦手意識がある場合は、タブレット端末を使って、漢字のアプリケーションで学習する。読みは平仮名の選択肢から文字をタップして選び、書きは直接画面に書くことができる。アプリによっては、ヒントが出てくるようになっていて、正解を重ねながら進めることができる。
- 単元の流れや1時間ごとの授業の流れを固定したり、1時間の授業内容を1枚のプリントにまとめたりして、見通しがもてる授業を行う。
- 人形劇の話を作ったり、詩を鑑賞した後に自分の作品を作ったりする。表現活動を通して、子どもは、不安や複雑な心の中を表現し、ストレスを解放することができる。

算数 数学

- 算数の学習に不安感がある場合は、算数セットのブロックを使ったり、「かさ」の学習では好きな飲み物を教材にしたりして、視覚的に数量を捉えることができるように、自分で操作し、体感しながら学べるように工夫する。
- 学習のつまずきが見られた場合は、系統性に配慮し、現学年以前の関連する学習内容に戻り、つまずきの原因となっている学習内容から復習する。
- 興味をもちやすくするために、子どもが描いたキャラクターのイラストを用いたオリジナル問題を作り、解くようにする。

理科

- タブレット端末を使って植物等の成長の様子を撮影し、デジタル画像で見る。
- 病院内などでは、直接的に実験や植物の観察、生き物の飼育などを実施することが難しいため、教育番組や学習アプリケーション、DVD等を活用する。
- 単なる知識の積み重ねで、総合的な見方や探求心の育ちが困難にならないように、学習で得た知識と身近な事象とを関連付けるため、単元ごとに内容に関連した具体例を提示する。

社会

- 歴史や地理において、国や人物の立場や考えを総合的に判断できるように、教科書から得られる史実や各国の様子などの知識を、映像や写真、説明と組み合わせて指導する。

英語

- 生徒が自ら学習を進めることができるように、学習活動の順番や内容の指示等を示した手順表を作成し、活用する。
- 生徒が自ら操作して一人で発音練習を進めることができるように、発音練習用音声データを保存したパソコンを準備する。
- 授業の流れを、「単語の学習→意味の確認→文法の説明→訳の確認→重要構文の暗記→ワークブック」のように固定する。